



冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定

Cisco Vision Director は、Cisco Vision Director ソフトウェアを実行する 2 台のサーバ間で「ウォームスタンバイ」と呼ばれる環境をサポートします。この環境では、一方のサーバがプライマリ アクティブ サーバとして動作し、もう一方のサーバがセカンダリ バックアップ サーバとして動作します。障害が発生した場合は、バックアップ サーバをアクティブ サーバにするように設定できますが、フェールオーバー処理は自動的に実行されません。

目次

- 冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定に必要な前提条件(99 ページ)
- 冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定に関する制約事項(100 ページ)
- 冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーについて(100 ページ)
- スタンバイ セカンダリ サーバをアクティブ サーバに昇格させる方法(101 ページ)
- プライマリ サーバをアクティブに復元する方法(107 ページ)

注:セカンダリへのフェールオーバー後にプライマリ サーバを復元するにはサービスの中断が必要になります。そのため、スケジュールされたダウンタイム中のみ実施してください。プライマリ サーバの IP アドレスを変更して、新しくアクティブになったセカンダリ サーバとのアドレス競合を解消するまでは、両方のサーバ間でバックアップのスケジュールを設定することができないので注意してください。復元後にテキスト ユーティリティ インターフェイス(TUI)を使用して、バックアップ/復元環境を再設定します。詳細については、[Cisco Vision Director サーバのバックアップと復元\(87 ページ\)](#)を参照してください。

冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定に必要な前提条件

セカンダリ サーバを昇格させてプライマリ アクティブ サーバにする前に、次の要件が満たされていることを確認します。

- 両方の Cisco Vision Director サーバにログインするための物理コンソールへのアクセスまたは SSH クライアント (PuTTY など)が必要です。
- テキスト ユーティリティ インターフェイス(TUI)の使い方を理解している必要があります。詳細については、[Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバのテキストベースのユーザー インターフェイス\(113 ページ\)](#)を参照してください。メニュー項目を選択するには、メニュー オプションに対応する文字を入力し、**Enter** を押します。
- セカンダリ サーバでプライマリ サーバの正常なバックアップがあることを確認します。詳細については、[Cisco Vision Director サーバのバックアップと復元\(87 ページ\)](#)を参照してください。
- Cisco Vision Director バックアップ サーバはプライマリ サーバと同じサブネット上に存在する必要があります。

- サーバではネットワークへの接続に Eth0 インターフェイスを使用している必要があります。
- プライマリ サーバとセカンダリ サーバの IP アドレスが必要です。

ヒント: TUI にログインするときに、サーバの IP アドレスが画面に表示されます。[TUI System Settings] > [System Information] メニュー オプションを使用して、サーバーごとに /etc/hosts の情報を表示することもできます。

冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定に関する制約事項

Cisco Vision Director サーバの冗長アーキテクチャには次の制限があります。

- Cisco Vision Director サーバ アーキテクチャでは、アクティブ サーバで障害が発生したときの自動フェールオーバーはサポートされていません。
- 環境によっては、手動のフェールオーバー プロセスが完了するまで 30 分以上かかります。
- また、手動のフェールオーバー プロセスの完了後、アクティブなイベントにいる場合はスクリプトのプッシュを実行してください。この処理は、導入の規模やコンテンツのサイズに応じて数分から 1 時間ほどかかることがあります。再度スクリプトのプッシュを行うとサービスが中断が生じます。

冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーについて

[図 1 \(100 ページ\)](#) は、通常のネットワーク状態と運用における Cisco Vision Director サーバの冗長性のアーキテクチャを示しています。プライマリ サーバとセカンダリ サーバは、Cisco Connected Venue (Connected Stadium) ネットワークの同じサブネットで 2 つの異なる IP アドレスを持つ独立したホストとして扱われます。

セカンダリ サーバは引き続きネットワークに接続していますが、通信と制御は、DMP を含めて、プライマリ Cisco Vision Director サーバとネットワークの他の部分との間でのみ行われることに注意してください。

セカンダリ サーバは、障害が発生した場合のプライマリのバックアップとしてネットワークに接続しているだけです。プライマリ サーバからデータを定期的にバックアップするように、セカンダリ サーバを設定します。

図 1 Cisco Vision Director 通常の動作における冗長性



[図 2 \(101 ページ\)](#) は、プライマリ Cisco Vision Director サーバからの接続が障害を起こしたときの冗長環境を示しています。プライマリ サーバが障害を起こした場合は、手動のプロセスを通じて、バックアップからセカンダリ サーバを復元し、プライマリ サーバをシャットダウンし、セカンダリ サーバをプライマリとして有効にする必要があります。

元のプライマリ サーバと同じ IP アドレスを使用するようにセカンダリ サーバを再構成する必要があることに注意してください。この例では、セカンダリ サーバの IP アドレスをプライマリ サーバのアドレスに合わせて 10.0.0.2 から 10.0.0.1 に変更しています。プロセスが完了すると、通信と制御は、新しく有効になったセカンダリ サーバとネットワークの他の部分との間でのみ行われるようになります。

注: ここでの「フェールオーバー」とは、セカンダリ サーバの自動有効化という意味ではありません。フェールオーバーのプロセスは手動です。

図 2 Cisco Vision Director フェールオーバーの動作における冗長性



スタンバイ セカンダリ サーバをアクティブ サーバに昇格させる方法

このセクションでは、冗長サーバ環境において Cisco Vision Director サーバが障害を起こした場合、または Cisco Vision Director ソフトウェアのアップグレードの実行が必要になった場合に、実行する関連タスクについて説明します。これには、セカンダリ サーバを有効にして Cisco Vision Director の運用のためにプライマリ サーバの機能を置き換えるタスクが含まれます。

注: TUI のメニュー項目を選択するには、メニュー オプションに対応する文字を入力し、Enter を押します。

ここでは、次の作業について説明します。

- セカンダリ サーバでのサービスの開始と設定(101 ページ)(必須)
- バックアップ ファイルからのシステム データを使用したセカンダリ サーバの復元(102 ページ)(必須)
- サービスの停止と自動再起動、およびプライマリ サーバのシャットダウン(102 ページ)(必須)
- セカンダリ サーバでのサービスのシャットダウン(103 ページ)(必須)
- セカンダリ サーバの IP アドレスの変更(103 ページ)(必須)
- セカンダリ サーバでのネットワーク サービスの再起動(105 ページ)(必須)
- セカンダリ サーバへのネットワーク接続の確認(106 ページ)(必須)
- スイッチの ARP キャッシュのクリア(106 ページ)(任意)
- セカンダリ サーバでの Cisco Vision Director 再起動(106 ページ)(必須)
- セカンダリ サーバでの Cisco Vision Director の設定の確認(107 ページ)(必須)

セカンダリ サーバでのサービスの開始と設定

セカンダリ サーバでのサービスの開始と設定を行う手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、「セカンダリ」サーバでインストール担当者として TUI にログインします。

TUI のメイン メニューが表示されます。

2. [Cisco Vision Server Administration] を選択します。

スタンバイ セカンダリ サーバーをアクティブ サーバーに昇格させる方法

3. [Failover] を選択します。
4. [Promote as Primary/Active] を選択します。

Cisco Vision Director のサービスが開始され、再起動時に自動的に起動するように設定されます。

バックアップ ファイルからのシステム データを使用したセカンダリ サーバの復元

バックアップ ファイルからのシステム データを使用してセカンダリ サーバを復元する手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、「セカンダリ」サーバーでインストール担当者として TUI にログインします。

TUI のメイン メニューが表示されます。

2. [Cisco Vision Server Administration] を選択します。
3. [Restore all system data from system backup] を選択します。
4. 復元するコンポーネントを選択し、復元に使用するバックアップ ファイルの日付を選択します。
5. [Apply] をクリックします。

復元が開始されます。復元プロセスが正常に完了すると、通知のダイアログボックスが表示されます。

6. 復元が完了したら、システムを調べてすべての処理が想定通りに行われたことを確認します。

サービスの停止と自動再起動、およびプライマリ サーバーのシャットダウン

注: プライマリ サーバーをこのタスクに使用できなくなった場合は、新しくアクティブにするセカンダリ サーバーと競合しないように、プライマリ サーバーの電源をオフにしてください。

サービスの停止と自動再起動、およびプライマリ サーバのシャットダウンを行う手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、「プライマリ」サーバーでインストール担当者として TUI にログインします。

TUI のメイン メニューが表示されます。

2. [Cisco Vision Server Administration] を選択します。
3. [Failover] を選択します。
4. [Configure as Secondary/Inactive] を選択します。
5. 任意のキーを押して [Failover] サブメニューに戻ります。
6. 「R」と入力し、**Enter** を押して、[Cisco Vision Server Administration] メニューに戻ります。
7. [Power Off] を選択します。

プライマリ サーバーがシャットダウンします。

セカンダリ サーバでのサービスのシャットダウン

セカンダリ サーバでサービスをシャットダウンする手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、「セカンダリ」サーバでインストール担当者として TUI にログインします。
TUI のメイン メニューが表示されます。
2. [Cisco Vision Server Administration] を選択します。
3. [Shutdown Dynamic Signage Director software] を選択します。
すべての Cisco Vision Director サービスが停止します。
4. 「R」と入力し、**Enter** を押して、メニューに戻ります。

セカンダリ サーバーの IP アドレスの変更

前提条件

セカンダリ サーバーの IP アドレスを変更する前に、次の要件が満たされていることを確認します。

- プライマリ サーバーの IP アドレスが必要です。
- vi エディタの使い方を理解している必要があります。vi エディタの使い方については、[Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのテキストベースのユーザー インターフェイス\(113 ページ\)](#)を参照してください。

注:/etc/hosts ファイルに Localhost エントリがあるものの hostname エントリがない場合でも、システムは動作します。ただし、セカンダリの hostname が存在する場合は、セカンダリ サーバの IP アドレスをプライマリ サーバの IP アドレスに一致するように変更する必要があります。

手順

ヒント:何らかの理由で TUI メニューから戻る場合は、:q と入力します。

セカンダリ サーバの IP アドレスを変更する手順は次のとおりです。


1. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、インストール担当者として TUI にログインします。
TUI のメイン メニューが表示されます。
2. メインメニューから [System Settings] を選択します。
3. [Network Settings] を選択します。
4. [Setup Network Information] を選択します。
ヒント:TUI メニュー内を移動するには、メニュー領域に対応する文字(a、b、c など)を入力して、**Enter** を押します。他のメニューに戻るには、指定されたいずれかのキーを使用して前のメニューに戻ります。
5. [Network Manager TUI] 画面で、[Edit a Connection] を選択します( [3 \(104 ページ\)](#))。

図 3 接続の編集



6. [eth0] を選択します。
7. [Edit...] を選択します(図 4(104 ページ))。

図 4 ネットワークの編集



8. [IPv4 CONFIGURATION] を [Manual] に設定します(図 5(104 ページ))。
9. [Show] を選択して詳細を入力します。
10. カーソルが [Static IP] アドレスの行に来るまで、Tab キーを押します。
11. Backspace キーを押して行の先頭に移動し、プライマリ サーバーの IP アドレスを入力します。

形式: *ip address/prefix*

図 2(101 ページ) の例では、10.0.0.1 になっています。プライマリ サーバーの実際の IP アドレスを使用します。

図 5 ネットワーク設定



スタンバイ セカンダリ サーバーをアクティブ サーバーに昇格させる方法

注:

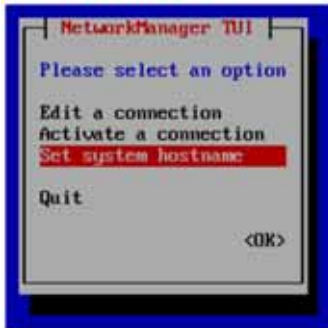
名前「eth0」は変更しないでください。

[IPv6 CONFIGURATION] は [Ignore] のままにします。

[Automatically connect] および [Available to all users] のボックスはオンのままにします。

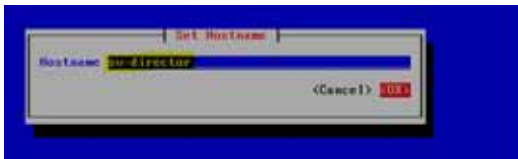
12. [OK] に移動して **Enter** を押します。
13. 任意のキーを押して [Network Settings] サブメニューに戻ります。
14. [Set system hostname] を選択します([図 6 \(105 ページ\)](#))。

図 6 システム ホスト名の設定



15. Cisco Vision Director サーバーの名前を入力して [OK] を選択します。

注:ホスト名には、完全修飾ドメイン名(FQDN)を使用してください。



16. [ホスト ファイルの編集 \(25 ページ\)](#) を参照してください。
17. このサーバーの IP アドレスをプライマリ サーバーの IP アドレスに置き換えます。
18. 設定を保存し、次のコマンドを使用して vi を終了します。

```
:wq
```

セカンダリ サーバーでのネットワーク サービスの再起動

セカンダリ サーバーでネットワーク サービスを再起動する手順は次のとおりです。

1. セカンダリ サーバの TUI メイン メニューで、[Services Control] サブメニューに移動します。
2. [Networking] オプションを選択します。
[Networking] サブメニューが表示されます。
3. [Restart networking] オプションを選択します。
ネットワーク デモンが再起動され、IP アドレスの変更がセカンダリ サーバに反映されます。

注:SSH を使用してネットワーク経由でサーバに接続している場合は、セッションが切断されます。プライマリ サーバの IP アドレスを使用して再接続してください。

セカンダリ サーバへのネットワーク接続の確認

セカンダリ サーバへのネットワーク接続を確認する手順は次のとおりです。

1. セカンダリ サーバの TUI メイン メニューで、[Troubleshooting] サブメニューに移動します。
2. [Ping a host] オプションを選択します。
3. 「Enter hostname」のプロンプトで、セカンダリ サーバのホスト名または IP アドレスを入力し、**Enter** を押します。
4. PING パケットの正常な送信と受信を確認します。

注: セカンダリ サーバに到達できない場合は、[スイッチの ARP キャッシュのクリア \(106 ページ\)](#)に進みます。

5. PING パケットの送信を停止するには **Ctrl + C** を押します。
6. 任意のキーを押して [Troubleshooting] メニューに戻ります。

スイッチの ARP キャッシュのクリア

このタスクは任意です。スイッチの ARP キャッシュは 5 ~ 10 分で更新されます。ただし、セカンダリ サーバの IP アドレスを変更した後にセカンダリ サーバにアクセスできない場合は、スイッチで **clear ip arp** 特権 EXEC コマンドを使用してその IP アドレスの ARP キャッシュをクリアしてください。

スイッチの ARP キャッシュをクリアする手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールを使用して、またはスイッチの IP アドレスがわかっている場合は次の例に示すように Telnet を使用して、スイッチにアクセスします。ここで *ip-address* はスイッチのアドレスです。

```
telnet ip-address
```

2. 対応するプロンプトで、次の例に示すようにログイン情報を入力します。ここで *yourname* と *yourpass* は自分のユーザー名とパスワードです。

```
Username: yourname  
Password: yourpass  
switch>
```

3. **enable** コマンドと対応するパスワードを使用して、特権 EXEC モードに移ります。

```
switch> enable  
Password: enablepassword  
switch#
```

4. セカンダリ サーバで使用されるようになった、新しく割り当てられた IP アドレスの ARP キャッシュをクリアするには、次の例に示すように **clear ip arp** コマンドを使用します。

```
clear ip arp 10.0.0.1
```

セカンダリ サーバでの Cisco Vision Director 再起動

セカンダリ サーバで Cisco Vision Director を再起動する手順は次のとおりです。

1. 「セカンダリ サーバ」で次のいずれかの操作を行います。
 - 引き続き TUI にログインしている場合は、メイン メニューに移動します。
 - まだセカンダリ サーバでインストール担当者としてログインしていない場合は、直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、新しい IP アドレスでもう一度ログインします。

TUI のメイン メニューが表示されます。

プライマリ サーバーをアクティブに復元する方法

2. [Cisco Vision Server Administration] を選択します。
3. [Restart Dynamic Signage Director Software] を選択します。
すべての Cisco Vision Director サービスが開始されます。
4. 任意のキーを押して [Cisco Vision Server Administration] サブメニューに戻ります。
5. メイン メニューに戻るまで、**R** を押し、**Enter** を押します。
6. **X** を押して TUI を終了します。

セカンダリ サーバでの Cisco Vision Director の設定の確認

セカンダリ サーバで Cisco Vision Director の設定を確認する手順は次のとおりです。

1. 管理者アカウントを使用して「セカンダリ」サーバーの Cisco Vision Director にログインします。
2. Cisco Vision Director メインメニューから [Device Management] > [Get Status] をクリックします。
3. [Play] をクリックします(**コマンドを送信**)。
DMP と Cisco Vision Director の間で正常に通信が行われていることを確認します。
4. すべてのコンテンツがこのサーバー上にあることを確認します。
5. DMP の制御を確立するには、コンテンツなしで、[No Staging] を選択した状態でスクリプトを開始します。この実行に必要な時間は 10 分未満です。

注: コンテンツを指定してスクリプトをプッシュすることもできますが、ダウンタイムが長くなります。

プライマリ サーバーをアクティブに復元する方法

注: このタスクではサービスの中断が必要です。

スケジュール済みのダウンタイムでは、プライマリ サーバをアクティブ サーバとして復元し、通常の動作環境を再度確立して、元のプライマリ サーバを障害からクリーンアップするか、ソフトウェア アップグレードの実行準備をし、IP アドレッシングを変更し、2 つのサーバ間で再度定期的なスケジュールのバックアップを設定します。

注: TUI のメニュー項目を選択するには、メニュー オプションに対応する文字を入力し、**Enter** を押します。

ここでは、次の作業について説明します。

- [プライマリサーバーをアクティブとして復元するための前提条件\(108 ページ \)](#)
- [セカンダリ サーバでのサービスの停止と自動再起動\(108 ページ \)](#) (必須)
- [セカンダリ サーバの IP アドレスの変更\(108 ページ \)](#) (必須)
- [セカンダリ サーバのネットワーク接続の確認\(108 ページ \)](#) (必須)
- [元のプライマリ サーバでのサービスの開始と設定\(109 ページ \)](#) (必須)
- [プライマリ サーバへのネットワーク接続の確認\(109 ページ \)](#) (必須)
- [バックアップ ファイルからのシステム データを使用した元のプライマリ サーバの復元\(110 ページ \)](#) (適宜)
- [Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動\(110 ページ \)](#) (復元実行後に必要)

プライマリ サーバーをアクティブに復元する方法

- 元のプライマリ サーバでの Cisco Vision Director の設定の確認(110 ページ)(必須)
- プライマリ サーバー ソフトウェアのアップグレード(111 ページ)(適宜)
- アップグレード後のバックアップ環境の再設定(111 ページ)(適宜)

プライマリサーバーをアクティブとして復元するための前提条件

アクティブ セカンダリ サーバーに管理上の変更を加えた場合は、正常なバックアップを実行します。

セカンダリサーバーがまだアクティブな状態で、バックアップ環境を再設定し、[Cisco Vision Director Manage Software > System Backups] から手動バックアップを実行します。すると、最新のバックアップがプライマリ(非アクティブ)サーバーにコピーされます。詳細については、[Cisco Vision Director サーバーのバックアップと復元\(87 ページ \)](#)を参照してください。

注: スマートソフトウェアライセンスでは、両方のサーバーを登録する必要があります。『[Cisco Vision Software Installation and Upgrade Guide](#)』を参照してください。

セカンダリ サーバーでのサービスの停止と自動再起動

セカンダリ サーバでのサービスの停止と自動再起動を行う手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、「セカンダリ」サーバーでインストール担当者として TUI にログインします。

TUI のメイン メニューが表示されます。
2. [Cisco Vision Server Administration] > [Failover] を選択します。
3. [Configure as Secondary/Inactive] を選択します。
4. 任意のキーを押して [Failover] サブメニューに戻ります。
5. 「R」と入力し、**Enter** を押して、[Cisco Vision Server Administration] メニューに戻ります。
6. [Shutdown Dynamic Signage Director software] を選択します。

セカンダリ サーバーの IP アドレスの変更

前提条件

セカンダリ サーバーの IP アドレスを変更する前に、次の要件が満たされていることを確認します。

- セカンダリ サーバの IP アドレスが必要です。
- vi エディタの使い方を理解している必要があります。vi エディタの使い方については、[Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのテキストベースのユーザー インターフェイス\(113 ページ \)](#)を参照してください。
- [セカンダリ サーバーの IP アドレスの変更\(103 ページ \)](#)の手順を参照してください。

セカンダリ サーバーのネットワーク接続の確認

セカンダリ サーバへのネットワーク接続を確認する手順は次のとおりです。

1. セカンダリ サーバの TUI メイン メニューで、[Troubleshooting] サブメニューに移動します。
2. [Ping a host] を選択します。
3. 「Enter hostname」のプロンプトで、セカンダリ サーバのホスト名または IP アドレスを入力し、**Enter** を押します。

プライマリ サーバーをアクティブに復元する方法

4. PING パケットの正常な送信と受信を確認します。

注:セカンダリ サーバに到達できない場合は、[スイッチの ARP キャッシュのクリア\(106 ページ\)](#)に進みます。

5. PING パケットの送信を停止するには **Ctrl + C** を押します。
6. 任意のキーを押して [Troubleshooting] メニューに戻ります。

元のプライマリ サーバでのサービスの開始と設定

元のプライマリ サーバでサービスの開始と設定を行う手順は次のとおりです。

1. 元の「プライマリ」サーバーの電源を入れます。

注:サーバが起動して SSH が使用できるようになるまでに数分かかる場合があります。

2. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、元の「プライマリ」サーバでインストール担当者として TUI にログインします。

TUI のメイン メニューが表示されます。

3. [Cisco Vision Server Administration] > [Failover] を選択します。
4. [Promote as Primary/Active] を選択します。

Cisco Vision Director のサービスが開始され、同時に、再起動時に自動的に起動するように設定されます。

5. 任意のキーを押して [Failover] サブメニューに戻ります。
6. 元のプライマリの Cisco Vision Director サーバでスクリプトが実行されている場合は、スクリプトを終了します。

プライマリ サーバへのネットワーク接続の確認

プライマリ サーバへのネットワーク接続を確認する手順は次のとおりです。

1. 元の「プライマリ」サーバの TUI メイン メニューで、[Troubleshooting] サブメニューに移動します。
2. [Ping a host] を選択します。
3. 「Enter hostname」のプロンプトで、プライマリ サーバのホスト名または IP アドレスを入力し、**Enter** を押します。
4. PING パケットの正常な送信と受信を確認します。

注:セカンダリ サーバに到達できない場合は、[スイッチの ARP キャッシュのクリア\(106 ページ\)](#)に進みます。

5. PING パケットの送信を停止するには **Ctrl + C** を押します。
6. 任意のキーを押して [Troubleshooting] メニューに戻ります。
7. メイン メニューに戻るまで、**R** を押し、**Enter** を押します。
8. **X** を押して TUI を終了します。

バックアップ ファイルからのシステム データを使用した元のプライマリ サーバの復元

他のサーバへのフェールオーバー中に、システムに対して管理上の変更を加えた場合は、セカンダリからバックアップを復元します。

注:この手順では、プライマリ サーバを再度有効化する前に、セカンダリ サーバからプライマリへのバックアップを実行しておく必要があります。

バックアップ ファイルからのシステム データを使用して元のプライマリ サーバを復元する手順は次のとおりです。

1. 管理者アカウントを使用して元の「プライマリ」サーバの Cisco Vision Director にログインします。
2. Cisco Vision Director メインメニューから、[Configuration] > [System Configuration] をクリックします。
3. [Dashboard] ドロワーで、[Tools] > [Advanced] > [Restore system data from backup] を選択します。
4. 復元するコンポーネントを選択します。
5. 復元に使用するバックアップ ファイルの日付を選択します。
6. [Apply] をクリックします。復元が開始されます。

Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動

Cisco Vision Director サーバで何らかの復元を実行した後は、Cisco Vision Director ソフトウェアを再起動してサービスの通常の運用を再開します。

Cisco Vision Director ソフトウェアを再起動する手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、元の「プライマリ」サーバでインストール担当者として TUI にログインします。

TUI のメイン メニューが表示されます。
2. [Cisco Vision Server Administration] > [Restart Cisco Vision Director Software] に移動します。
3. メイン メニューに戻るまで、**R** を押し、**Enter** を押します。
4. **X** を押して TUI を終了します。

元のプライマリ サーバでの Cisco Vision Director の設定の確認

元のプライマリ サーバで Cisco Vision Director の設定を確認する手順は次のとおりです。

1. 管理者アカウントを使用して元の「プライマリ」サーバの Cisco Vision Director にログインします。
2. Cisco Vision Director の [Main Menu] で、[More] > [Management Dashboard] に移動します。
3. ダッシュボードのドロワーで、[DMP and TV Controls] > [Monitoring] > [Get Status] を選択します。

DMP と Cisco Vision Director の間で正常に通信が行われていることを確認します。
4. すべてのコンテンツがこのサーバ上にあることを確認します。
5. 管理ダッシュボードでステータスを表示して、システムをテストします。
6. テスト スクリプトを実行してシステムの動作を確認します。

プライマリ サーバーをアクティブに復元する方法

プライマリ サーバー ソフトウェアのアップグレード

注: このタスクは、『[Cisco Vision Software Installation and Upgrade Guide: Dynamic Signage Director Release 6.4](#)』の手順に従って冗長サーバーでソフトウェア アップグレードを実行する場合にのみ必要です。

「セカンダリ」サーバーでソフトウェアをアップグレードした後、元の「プライマリ」サーバーをアクティブ状態に復元したら、プライマリ サーバー ソフトウェアをアップグレードします。

アップグレード後のバックアップ環境の再設定

セカンダリとプライマリの両方のサーバについてソフトウェアのアップグレードが完了したら、「セカンダリ」サーバでバックアップ アカウントを再度有効にし、「プライマリ」サーバで自動のバックアップと復元を設定するよう、バックアップ環境を再設定します。詳細については、[Cisco Vision Director サーバーのバックアップと復元 \(87 ページ\)](#)を参照してください。

プライマリ サーバーをアクティブに復元する方法